

七曲り 登山道を感じて歩く。



距離：約 1900 m
所要時間：約 60 分
植物お楽しみレベル



歴史お楽しみレベル



ハイキングレベル



(途中から石段や登山道が舗装されているため、登りやすい)

登山道入り口：
岐阜森林管理署東から

昔は、大手道として岐阜城への通勤道に使われていた七曲り登山道。登山道には今でも当時積まれたと言われる石積み等が残っており、歴史を感じることができます。また、登り口付近ではツブラジイやアラカシなどの金華山の特徴的な森が広がります。さらに登っていくとヒノキの植林やアベマキ林などが見られ、植物の移り変わりも楽しむことができます。

COURSE GUIDE

戦国時代の道 ①



七曲り登山道の入り口では戦国時代に使われたと言われる道の跡を見ることができます。岩場には、人の手によって削られた跡や、昔の道の縁の石積みなどが現在も残っています。

ツブラジイの森 ②



岐阜市の木となっているツブラジイは、5月ごろに独特の香りのする薄い黄色の花をつけます。その香りは、岐阜公園にいてもわかるほど強いものです。また、花のつくころには、山全体が黄金に輝いているように見えます。

チャート層とは違う地層 ③

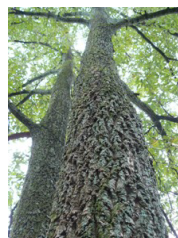


金華山の大部分はチャートのかたまりで形成されていますが、ドライブウェイと七曲り登山道をつなぐ道では、チャートに比べるとうろく崩れやすい黒色泥岩層を見ることができます。



植林されたヒノキ林 ④

過去に植林された場所は、台風の被害や戦後の伐採などの理由から木が無くなったため、植林されたと言われています。このように植林された理由や時期などを調べてみると様々な歴史が見えてきます。



アベマキ林 ⑤

頂上の付近になるとアベマキの木々が多く見られます。アベマキは、明るく乾燥した場所に多く、金華山では頂上付近や尾根筋に多く見られます。また、秋には大きな丸いドングリをつけます。



城へー丁の道標 ⑥

七曲り登山道では写真のような「城へ〇丁」という石の道標をよく見かけます。この道標は頂上が城一丁、金華山を下りにつれて二・三・・・十丁となっています。この道が城へ登るのに使われていたことがこの道標からもわかります。

くわしくは裏面へ

七曲り登山道の植物の移り変わり



登山口付近では、ツブラジイやアラカシといった常緑広葉樹の薄暗い森が広がっています。登って行くとヒノキ林やアベマキの林などへの移り変わりを感ずることができます。七曲り登山道では、石積みや道などから歴史を感ずるだけでなく、金華山に広がる森からも歴史を感ずることができます。

現在、金華山の森の特徴となっているツブラジイやアラカシの薄暗い森は、昔から広がっていたものではなく、昔は主にマツなどが生えている明るい森だったと言われています。マツなどの森からツブラジイの森への移り変わりには、金華山の歴史に大きく関係しています。金華山は、江戸時代より「天領」、明治入ると「御陵林」、そして現在の「国有林」と森が保護されてきました。そのため一般の人が森に入り木を切ることができませんでした。人の手があまり入らなかつたことで、何百年という時をかけ、マツなどからコナラなどの落葉広葉樹へと森が移り変わり、その後ツブラジイなどの常緑広葉樹の薄暗い森へと移り変わっていったと言われています。このように森の移り変わりを調べてみると人と森との歴史を知ることができます。

戦国時代の道

戦国時代、信長も岐阜を訪れたルイス・フロイスも岐阜城に行く時は七曲り登山道から登ったと考えられています。戦国時代、岐阜城では信長はもちろん、周辺大名の人質などが生活していたと伝えられています。

当時、城に登る時に使われていた道と現在の道を比べると、その高さの違いに驚きます(写真参照)。近年、登山道として使う中で道が削られ、高さに違いができたと言われています。道三や信長の時代を想像しながら登ってみると、改めて金華山の歴史を感ずることができます。



金華山のヒノキ植林

金華山には、所々に植林があります。植林された林は、きちつと密集して並んでいるため注意深く森を観察するとわかります。このコースでは、唐釜ハイキングコースと接続される部分が植林されたヒノキ林です。

植林された理由は、伊勢湾台風で被害にあった場所や戦後の燃料として使われたなど言われています。戦後の新聞にも七曲り登山道の登山口付近から建築資材として切り出しされたという記録があります。金華山の植林を通して、人々の苦勞の歴史を知ることができます。



城へ〇丁の道標

七曲り登山道では城へ〇丁の石の道標をよく見かけます。この道標は、富士山などの山の〇合目は、ふもとから一・二・三・・・頂上が十合目となっているのに対して、金華山にある道標は城から一・二・三・・・ふもとが十丁となっています。これは金華山は山では無く、城を基準に道標をつけられているからです。また、一丁の距離は、城からふもとまでの距離を10でわった距離となっています。この道標見ると後、頂上までどのくらいの距離に今いるのかがわかります。

